

和暦	昭和16年	昭和17年	昭和18年
西暦	1941	1942	1943
ビルマ派遣第118兵站病院（森第6770部隊）			4・26 小倉陸軍病院にて編成（総人員笠原六郎軍医少佐以下将校37、下士官72、兵278） 5・15 小倉陸軍病院を出発、長門丸に乗船、門司港出航 5・25 台湾高雄港寄港 5・28 台湾高雄港出航 5・29 台湾澎湖島馬公港着 5・30 台湾澎湖島馬公港出航 6・8 シンガポール西埠頭着 6・9 上陸、旧タンリン兵営（詳細不明）に宿営 7・5 旧タンリン兵営出発、玉津丸に乗船 7・6 出航、ビルマ方面軍の戦闘序列に入る 7・8 ペナン港（マレーシア）寄港 7・16 ビルマ国ラングーン港（現ヤンゴン）上陸、市内常盤台兵站宿舎に宿営 8・第15軍（林集団）の指揮下に入り、シャン州タウンジーに本院、カロー、モールメンに分院を開設する ●タウンジー兵站病院は旧英軍兵営を使用、33万坪、約3,000名の傷病者を収容。看護婦不足のため、現地人婦人約80名を募集し補助看護婦とした ●カロー分院は井上栄彦軍医中尉を長とし、約800名の傷病者を収容 ●モールメン分院は権藤稔軍医中尉以下約1－3の人員 8・本院に日赤香川徳島合同班及び長野班が配属される 8・カロー分院に長野班（本院より配属替）及び静岡班が配属される 10・25 泰緬鉄道開通、モールメンは泰国との交通の唯一の関門となる。漸次空襲被害が増え、モールメン分院に泰国（タイ）への後送患者が増加
参考事項	12・8 太平洋戦争開戦 12・8 日本軍、マレー半島上陸 12・8 日本軍、ハワイ真珠湾空襲 【対米英宣戦布告】	2・15 日本軍、シンガポール占領 3・7 日本軍、タイから国境を越えビルマへ。モールメンを経てペルーに侵攻 3・8 第33師団、ラングーン占拠 【ビルマを日本軍の軍政下に置く】 6・日本軍、ビルマ全土に軍政布告 6・5 ミッドウェー海戦 8・7 米軍、ガダルカナル島上陸	1・14・24 カサブランカ会談 米軍、ビルマ戦線に加わることを決定 2・イギリス・インド軍挺身隊、ビルマ侵入 2・17 英ウィングート旅団、第18師団防衛管区内に潜入
	8・1 日本・ビルマ同盟条約調印、ビルマ政府独立宣言		

和暦	西暦		昭和19年	昭和20年	昭和21年
ビルマ派遣第118兵站病院（森第6770部隊）	参考事項	1・8 本院は第28軍（策）の戦闘序列に入る（カロー分院は第15軍の指揮下に残す）	昭和19年	昭和20年	昭和21年
		2・ 本院はタウンジーよりプローム郊外に移り、ジャングル内に病院を、シエダンに患者療養所を開設する（その後、カロー分院はプローム本院に復帰）	1944	1945	1946
3・3 モールメン分院は日赤広島班の救護看護婦21名の配属を受け、常時約600名の傷病者を収容し治療に当たった	6・15 米海軍、サイパン島に上陸	3・8 日本軍、インパール作戦開始	1・8 本院はパウンデーの第28軍司令部庁舎跡に移転	4・24 本院主力は軽傷患者約1,000名を護送しながら全員徒歩でパウンデーを出発、ペグー山脈を横断してモールメンを目指す	6・6 部隊は二隊に分かれ、第一班がトク村を出発
7・4 インパール作戦中止命令	7・7 日本海軍、サイパン島玉砕	2・6 マーシャル諸島の日本守備隊全滅	1・ 本院に日赤和歌山班21名が配属される	4・28 本院の重傷患者約240名、数隻の小舟艇に分乗してラングーン港を出帆、翌日空襲を受けて一隻沈没	7・25 第一班が宇品港（現広島市南区）着
10・レイテ沖会戦で連合艦隊主力壊滅	11・24 米軍B29、東京空襲開始	1・6 フィリピン・ルソン島に米軍上陸	2・22 病院長笠原中尉は第15軍司令部に転任、第二代院長松村長義軍医少佐が着任する	4・末 ビルマ方面軍司令部がラングーンよりモールメンに撤退、これに伴い分院の人員は増加したが、入院患者も病室に溢れた	8・1 部隊第二班がトク村を出発
		3・10 東京大空襲	5・3 モールメン分院、ビルマ方面軍直轄となる	5・18 本院主力、シッター川の渡河準備中に英印軍約の襲撃を受ける	10・12 佐世保港（現長崎県佐世保市）着、第118兵站病院解隊
		3・27 ビルマ国軍が対日蜂起	5・31 モールメン分院が爆撃を受ける	●戦死確認38名、生死不明140数名（うち12名は他の部隊に合流して生還した）	
		4・1 米軍、沖縄本島上陸	8・17 ビルマ方面軍命令によりモールメン分院を閉鎖、同地に第118兵站病院が再編成され、岸岡一義軍医中佐が第三代病院長として着任	●モールメン分院に辿り着いた者のうち約40名はマラリヤ等により終戦前に泰国（タイ）に後送された	
		5・7 ドイツ、無条件降伏	9・1 英軍の指令に基き、第118兵站病院はトク村に移転開設、モールメン地区の診療に当たる	●日赤和歌山班は戦病死1名、戦死12名、8名生還	
			●現地人補助看護婦は松村部隊長の命により郷里へ帰った		
			7・31		
			8・6 広島に原爆投下		
			8・8 ソ連が対日宣戦布告		
			8・9 長崎に原爆投下		
			8・14 ポツダム宣言受諾決定		
			8・15 天皇、「終戦」の詔書放送		
			9・2 降伏文書調印		
			7・26 ポツダム宣言発表（米英中）		